



初飛行郵便の収集

会員 高井 和伸 (29期)



2通の郵便を見て下さい。ツェッペリンとコンコルドにちなむ郵便です。

ツェッペリンの郵便は、切手の消印とは別に、丸型のスタンプが押しであり、真ん中に「GRAF ZEPPELIN (ツェッペリン伯爵号)」とあります。世界一周便のドイツの飛行船の名前が識別できます。切手の消印スタンプは「TOKIO」の「21. 8. 29」とあります。これは東京中央郵便局で1929 (昭和4) 年8月21日に引き受けたというふうに取り扱います。この郵便の裏側にも米国、ニュージャージー州のレイクハーストという郵便局の到着印があります。その日付は1929年8月29日午前9時30分です。この郵便の名宛は、米国、ニュージャージー州のレイクハースト郵便局留置のWASMER氏宛です。コンコルドの郵便も、切手の消印とは別にコンコルドのシルエットの入ったスタンプでパリーリオデジャネイロ間、1976 (昭和51) 年1月21日、初飛行、とフランス語で書かれていることが読み取れます。そして、引受消印は1976年1月21日6時45分パリ空港局と読み、この封筒の裏側には、ブラジル国リオデジャネイロ空港局の1月21日付の到着印が押しされています。名宛は、ブラジル国リオデジャネイロ局気付のタカイカズノブ氏 (私) です。ツェッペリンの郵便は、飛行船ツェッペリン伯爵号による東京ーニューヨーク間の初飛行、コンコルド郵便は、コンコルドによるパリーリオデジャネイロ間の初飛行便にそれぞれ積まれた郵便です。

前置きは長くなりましたが、こんな調子の初飛行郵便を集め始めて50年、約5000通を集めました。何の因果でこんなことをやっているのか。一つは、私が高校を出て就職したのが名古屋中央郵便局外国郵便課であったこと、その二つが窓口に来るお客さんが初飛行郵便を熱心に作っておられたこと、三つ目が私がヒコキが好きだったことからです。何が楽しいのかと問われれば、制作のプロセスが障害だらけで、自分で満足できる初飛行郵便ができないために、余計に闘志を燃やすからです。コンコルド初飛行郵便はドイツの友人が私のために

作ってくれたものです。封筒の裏には、差出人高井和伸 (北区赤羽台…当時の住所) とあり、リオデジャネイロ局には、私が窓口に取りにかけませんから、差出人戻しで、私の所に戻って来るという仕掛けです。成功率は5割もありません。それより以前に、初飛行のデータの入手がままなりません。日本発ならまだしも、外国間同士の初飛行だと、当刻国の郵便切手 (そのうえ適正料金を調べるのが加わる) を貼った初飛行郵便を入れた外国郵便を差立郵便局に、これこれしかじかの初飛行に出発のギリギリの時間で引受消印をして差立てて欲しい…という依頼文を入れて送らねばならない。原稿の字数が切れました。あとは、この春に私が出版した『PAR AVION』 (パラビオン、仏語で航空郵便の意味) という本をご覧ください。こうした初飛行郵便をオールカラーで184通載せたものです。郵研社発行。虎ノ門交差点近くの書原・霞ヶ関店で売っています。



ツェッペリンの郵便



コンコルドの郵便